制限いつまで 現場苦悩

小中校の屋外活動

除染で線量低減 緩和、解除は一部

2/7 民報

東京電力福島第一原発事故で、中・浜通りの十一市町村の小中学校で一律の屋外活動制限が続いている。校庭の表土入れ替えで放射線量が比較的低減し、平成二十四年度から制限の緩和や解除を検討する市町村もあるが、ごく一部だ。屋外活動が本格化する春を前に、子どもや競技関係者から解除を求める声が上がる一方、保護者の不安は依然、根強い。教育関係者は子どもの安全と体力・競技力向上のはざまで対応に頭を抱える。

3・11大震災 新聞面

■根拠がほしい

郡山市は昨年四月下旬、暫定基準値を超えていた瀬小を除く小中学校八十五校で授業での屋外活動を一時間、部活動を二時間以内とする措置を決めた。当時の文部科学省の暫定基準値や小中学校長会の意見などを踏まえ、独自に基準を定めた。

その後、全ての市立学校で校庭の表土除去を進め、線量が比較的低く、表土除去の対象外とした市西部の湖南小・湖南中を除く小中学校で作業を終えた。地表の放射線量はおおむね毎時〇・二マイクロシーベルト程度に下がった。

市教委の担当者は放射線量が毎時一マイクロシーベルトを大幅に下回っていることなどを踏まえ、制限の見直しが必要と考えている。ただ、「現在の放射線量が本当に大丈夫なのか判断が難しい。確実に安全といえる根拠がほしい」と苦悩する。

背景 文部科学省は子どもの被ばく量を減らすため、昨年四月に生活パターンを屋外八時間と想定し、年間一〇ミリシーベルト（毎時三・八マイクロシーベルト）を校庭・園庭での屋外活動制限の暫定基準値とした。同八月に暫定基準値を見直し、年間一ミリシーベルト以下にすると改め、校庭の放射線量として毎時一マイクロシーベルトを目安とした。県によると、毎時一マイクロシーベルト以上あった県内の公立の幼稚園、小中高校、特別支援学校の計三百十八校・園は全て表土除去などの除染を完了している。公立の毎時一マイクロシーベルト未満の学校と、私立の幼稚園、小中高校でも八割程度が終えている。

県北地方などに比べ、比較的放射線量が低い平田村でも制限措置が続いている。

村教委は平成二十三年度当初から小学校全四校と中学校全二校で、屋外活動を制限している。村教委は「線量が比較的低くても一部の保護者が不安を持っている。二十四年度も制限するかどうかは、これまで蓄積してきた学校の空間放射線量のデータを踏まえ、判断したい」と慎重だ。

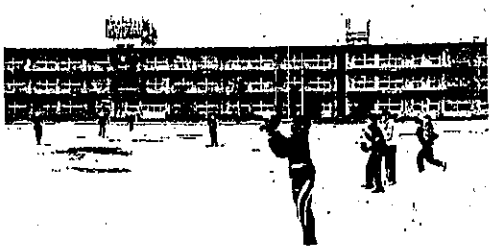
■納得いく形で

福島市教委は二学期が始まった昨年九月一日に屋外活動を正常化するよう各校に通知した。しかし、放射線の影響に対する保護者の不安から、多くの小中学校は各校独自の判断で屋外活動制限を継続している。

比較的放射線量の低い市内西部にある水保小でも、体育の授業を中心に屋外活動を一日二、三時間程度に制限している。佐藤秀雄校長は「屋外活動は保護者の理解を得なければならない」と悩ましげに話す。

郡山市の郡山三中の野球部は昨年の中体連東北大会でベスト8に入った強豪だ。限られた時間を有効に活用するため屋内競技と体育館を譲り合い、校舎の廊下でトレーニングする時もあった。

放射線量の低い会津地方などへの遠征が多くなり、保護者の負担が増えた。佐藤秀治校長は「制限による影響は大きいが、屋外活動の本格的な再開は生徒、保護者が納得いく形にしなければならない」と指摘する。



屋外活動制限が続く郡山市。限られた時間の中でキャッチボールに汗を流す郡山三中の野球部員＝6日

中・浜通りの公立小中学校の屋外活動制限の実施状況

一律で制限	郡山、二本松、南相馬、本宮、大玉、鏡石、西郷、平田、川内、浪江、飯舘
学校の判断に委ねる	福島、須賀川、相馬、田村、伊達、泉崎、三春、小野、新地
制限なし	いわき、白河、桑折、国見、川俣、天栄、中島、矢吹、棚倉、矢祭、塙、鮫川、石川、玉川、浅川、古殿、広野、富岡、大熊

※楢葉、双葉、葛尾の3町村は現在、学校を開設していない。
※制限なしの中には屋内活動を増やすなどの配慮をした市町村を含む

中・浜通り公立小中学校 11市町村で一律制限

南相馬市は4月に解除

福島民報社は六日までに、中・浜通りの四十二市町村を対象に公立小中学校の屋外活動制限の状況を調査した。内訳は【表】の通りで、十一市町村が管内一律で制限を設けていた。県の調べでは、比較的放射線量の低い会津地方の十七市町村は制限していない。

十一市町村のうち、南相馬市は四月から制限を解除する方針で、二本松市も解除を検討している。役場機能を移転している川内村は現在、学校を開設している郡山市と足並みをそろえているが、四月からの村内での学校再開時には制限を設けない予定だ。

県内の私立、国立の小中学校は、除染後に制限を解除したり、屋外での体育の授業を全て取りやめたりするなどしている。

母親「殺してない」

大分女児遺棄 夫に告白後出頭

本優子疑者　江本琴音ちゃん

が、県警の調べに「私は殺していない。娘の顔に毛布が掛かって死んでいた」と供述していることが六日、捜査関係者への取材で分かった。

ちゃんの骨とみられる骨片が見つかった雑木林で遺留品などを捜索。七日も優子容疑者の自宅などを家宅捜索し、琴音ちゃんが死亡した経緯を調べる。

と、優子容疑者は「九月十三日の朝、娘の顔に毛布が掛かって死んでいるのを自宅で発見し、動転して隠してしまった」と供述。県警は昌造さんへの聴取などから虐待の疑いはないとみている。

優子容疑者は逮捕前にも数回、任意で事情聴取を受けていた。

共同通信が別人の写真配信

「を配信、全国の三十以上の加盟新聞社が六日付朝刊などに掲載

の知人らが「本人に間違いない」と話したことを根拠に確認できたと思い込み、親族への直接確認を怠った。

共同通信社は「重大な取材ミス」として、写真を間違えられた女性に謝罪した。

再発防止に努める

奥野知秀・共同通信編集局長の話　別人の写真を容疑者、被害者と間違えて配信するという、あ

雪害対策に乗り出す

喜多方市 西会津町 死亡事故相次ぎ

四日夜から五日にかけて雪下ろし中の死亡事故が相次いだことを受け、喜多方市と西会津町は六日、関係団体と連携し、雪害対策に乗り出した。

西会津町は防災、公共交通などの関係者約三十人による町豪雪対策関係団体連絡会議を開いた。町が豪雪対策本部設置と先週末の大雪による交通機関や建物被害について説明。チラシや防災行政無線、ケーブルテレビなどで除雪作業時の注意を呼び掛けることを確認した。

町は、自力で除雪が困難な高齢者世帯などに対する除雪費補助事業費を計上した一般会計補正予算案を、今月中に開かれる町臨時議会に提出する方針も示した。

喜多方市雪害応急対策本部は五日から六日にかけ危険箇所のパトロールや防災行政無線での広報を実施した。今後は、一人での除雪作業は控えるなどの注意点を、ホームページや全戸配布のチラシなどで市民に周知する。

刃物出し現金強奪

いわきのコンビニ、男逃走

うな物を巻いており、顔のほとんどを隠していたという。

現場は付近に夏井小があり、周囲は街灯が少なく夜間は暗い。同

ホームページで降雪、積雪情報

福島地方気象台

福島地方気象台は六日、ホームページで降雪や積雪の状況を伝えるサービスを開始した。

東北地方の午前九時半ごろに更新される。

現在の積雪深、平年比を平面図で見ることができるほか、各積雪観測地点の降雪量や最深積雪、累積降雪量の推移を示すグラフもある。

データは毎日午前九時半ごろに更新される。

山形新幹線上りで一時運転見合わせ

線路上に雪の塊

山形新幹線上り「つばさ138号」は六日午前十一時二十分ごろ、山形県米沢市のJR大沢駅付近の線路上で雪の塊を発見し一時、運転を見合わせた。

JR東日本福島支店によると、除雪作業のため、米沢駅で停車し、約一時間後に運転を再開した。乗客約百八十人に影響した。

◇5日の県内交通事故▽件数＝6▽死者＝0（累計5、昨年5）▽傷者＝7

人と地球の安心・安全を利益する
千代田テクノル

ボールケース　オフセットボール
日本初のオフ段
美粧ケース
吉川紙業株式会社
本社工場・伊達郡国見町成田字元屋2 TEL(024)582-2184㈹
郡山工場・郡山市名倉293 TEL(024)945-2355㈹

本宮の101歳鈴木ヨシさんが死

本宮市で百一歳のヨシ（すずき・よしさん）は五日午後八時十分、肺炎のため本宮病院で死去した。本宮市本宮字平井

住。高校卒業後に渡米イリノイ工科大で学び、大都市シカゴで活躍する人々の明暗をリティー豊かに撮影し目された。

53年に帰国後は、宮などの伝統建築影。鋭い造形感覚で界に新風を吹き込み。70年代に京都・御国宝「伝教大師画所」（まんだら）をした写真集を昨秋色したフィルムを修て再出版したばかり。1月下旬から脳梗塞で入院、治療った。

代表作に「シカゴ」「桂離宮 美形」など。69年に日籍取得。83年紫綬褒96年文化功労者。

中島 誠氏（なか・まこと＝文芸評論1月14日午後10時肺炎のため東京都世区の病院で死去、東京都出身。自宅は都狛江市岩戸南2丁15。告別式は近親で済ませた。お別を開く予定。喪主は民俗学研究者の菅いこ）さん。

全共闘運動支援として知られ、近代小説評論などを。編著書に「司馬遼太山寓男」など。2年に「松本清張の説」で大衆文学研受賞。

芳野 満彦氏（・みつひこ、本名彦＝はっとり・こ、登山家、山岳5日午後11時30分金のため水戸市の